同じ値動きで比べる2つの先物銘柄

マイクロEミニS&P 500先物（MES）とマイクロEミニ・ナスダック100先物（MNQ）を、それぞれ1枚取引したときの損益を求めましょう。2つの取引は別々に計算します。金額はすべて米ドルで、手数料を差し引く前の値です。

先物銘柄	指数1ポイント当たりの金額（米ドル）	1ティックの値幅（ポイント）	1ティック当たりの金額（米ドル）
MES	5	0.25	1.25
MNQ	2	0.25	0.50

買い建て（ロング）の損益は、指数の変動幅を上昇ならプラス、下落ならマイナスのポイント数で表し、1ポイント当たりの金額を掛けて求めます。売り建て（ショート）では、結果の符号を逆にします。

1. それぞれの指数が4ポイント下落しました。MESを1枚買い建てていた場合と、MNQを1枚買い建てていた場合の損益を、それぞれ求めましょう。

2. それぞれの指数が2.5ポイント下落しました。MESを1枚売り建てていた場合と、MNQを1枚売り建てていた場合の損益を求めましょう。売り建てでは、なぜ損益の符号が逆になるのでしょうか。

3. MNQを1枚売り建てて、3米ドルの損失が出ました。ナスダック100指数は上昇しましたか、それとも下落しましたか。値幅をポイント数とティック数で答えましょう。

学習用の仮定に基づく例です。実際の損益は約定価格や手数料によって変わります。先物取引には大きな損失を被るリスクがあります。

解答と解説

1. **MES: (−4) × $5 = −$20**

   MNQ: (−4) × $2 = −$8

   指数が下落すると、買い建てでは損失が出ます。同じポイント数だけ下落しても、銘柄ごとに取引倍率が異なるため、米ドルで表した損失額は異なります。

2. **MES: (−1) × (−2.5) × $5 = +$12.50**

   MNQ: (−1) × (−2.5) × $2 = +$5

   指数が下落すると、売り建てでは利益が出ます。この例では、どちらの指数も10ティック下落しました。

3. **3 ÷ 2 = 1.5**

   1.5 ÷ 0.25 = 6

   指数は上昇しました。売り建てでは、指数が上昇すると損失が出ます。損失額を1ポイント当たり2米ドルで割ると、何ポイント動いたかが分かります。その値を1ティック当たり0.25ポイントで割ると、ティック数が求まります。

答えを確かめよう

無料の計算ツールで、指数の上げ下げ、売り・買いの別、値幅を変えて試せます。値動きのティック数に1ティック当たりの金額を掛けても、損益額を確認できます。

CME Group・先物の取引要綱

損益計算ツール

学習用の仮定に基づく例です。実際の損益は約定価格や手数料によって変わります。先物取引には大きな損失を被るリスクがあります。